

# 学校アンケートのお知らせ

平成30年9月7日  
伊豆市立修善寺南小学校  
校長 手島 雅恵

1学期末の学校アンケートへの御協力ありがとうございました。いくつかの項目の中で目立ったものをピックアップして、子ども・保護者・教員の回答を並記しました。アンケート結果をもとに、今現在、改善に向けて取り組んでいるものもあります。また、来年度の教育計画にいかしていきたいと思えます。なお、教員の評価は質問事項に対して、学級の子どもの80%以上が該当した場合「肯定」とし、順に60%以上80%未満、40%以上60%未満、40%未満としています。

また、質問や要望事項への回答も裏面に記載してあります。

平成30年度1学期学校評価の表れ(子ども・保護者・教員)

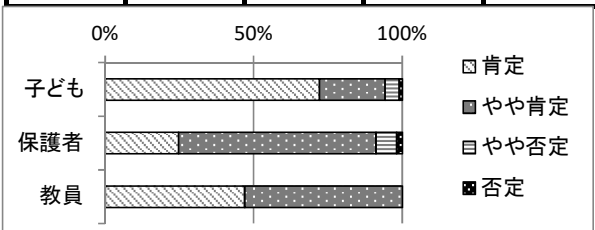
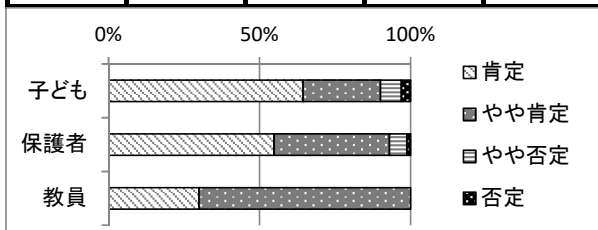
※数字の単位は%

学校へ行くことを楽しみにしている

いじめのない学校・学級づくり

	肯定	やや肯定	やや否定	否定
子ども	64	26	7	3
保護者	55	38	6	1
教員	30	70	0	0

	肯定	やや肯定	やや否定	否定
子ども	72	22	5	1
保護者	25	66	7	2
教員	47	53	0	0



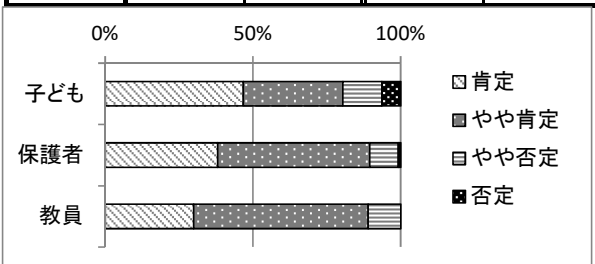
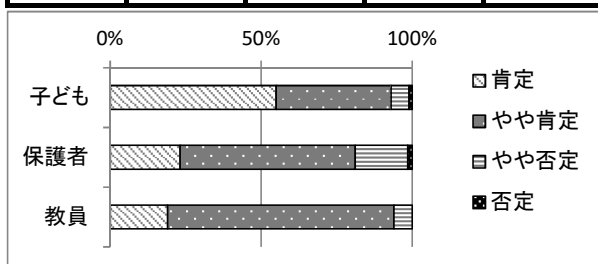
学校を楽しみにしていることについては、おおむねよい結果が出ています。今後も明日が待たれる学校づくりに取り組んでいきます。しかし、保護者や教員が見るより「楽しみ」を感じていない子がいるのも事実です。教育相談や日頃の観察を通して、そのケアにあたるとともに、安心して過ごせる場所を提供できるようにしていきたいと思えます。南小では、「南小なかよし宣言」のもと、子どもと教師がいっしょになって「いじめゼロ」をめざしています。相手のことを考え、やさしく接することができる子どもが育つよう、道徳や学級活動などとおして、人との接し方や相手を尊重する態度を養うとともに、問題が起きたときには全職員で迅速に対応することを心がけてきました。しかし、「いじめゼロ」の達成には至っていません。いじめに関して否定的に回答した子どもや保護者の数を謙虚に受けとめ、今後も「いじめゼロ」をめざします。

授業の内容がわかる(教員:わかるように授業を展開している)

子ども(自分)は、いいところがあると思っている

	肯定	やや肯定	やや否定	否定
子ども	55	38	6	1
保護者	23	58	17	2
教員	19	75	6	0

	肯定	やや肯定	やや否定	否定
子ども	47	34	13	6
保護者	38	52	10	1
教員	30	59	11	0



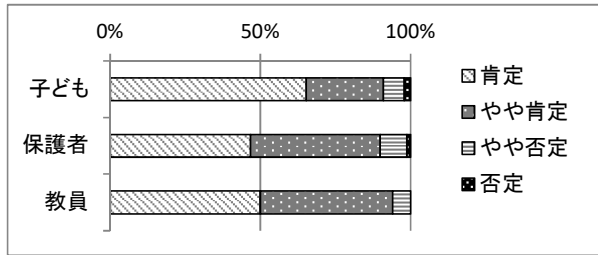
教員は子どもが内容を理解できる、わかると思えるような授業を心がけています。ただ、まだまだ十分とはいえません。今回のアンケートの数字を真摯に受けとめ、より一層の授業力向上を図らなければならないと考えます。また、授業で理解できないところは、補充学習などで補っていきます。家庭におきましては、子どものプリント学習への取り組みをご覧いただいて励ましていただきたいと思います。

昨年度から、「自己肯定感」に関してアンケートを取っています。学年別に見ると、学年が上がるにつれて低くなる傾向がみられます。(必ずしも6年生が一番低い結果になるとはかぎりませんが、修善寺地区の他校と比べても、似たような傾向が見られます)

自己肯定感が高い子は何事にも積極的に取り組み、その成果もよいと言われています。肯定的な言葉かけを積極的に行ったり、「かがやきさん」を見つけたりする活動などとおして自己肯定感を培っていきます。御家庭でも、子どもを認め、励ますかかわりをもっていただきたいと思います。

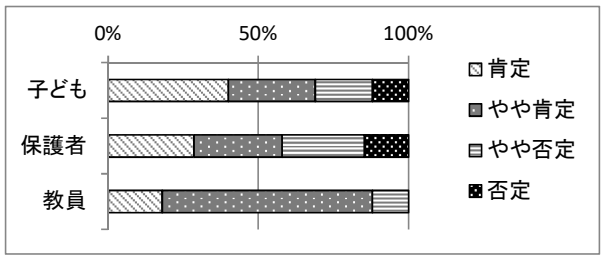
家庭学習(決められた内容)に取り組んでいる

	肯定	やや肯定	やや否定	否定
子ども	65	26	7	2
保護者	47	43	9	1
教員	50	44	6	0



読書への親しみ

	肯定	やや肯定	やや否定	否定
子ども	40	29	19	12
保護者	29	29	27	15
教員	18	70	12	0



家庭学習については、今年度も年度初めに各家庭に家庭学習のリーフレットを配付するなどして協力を仰ぎました。各学年に応じて量や内容を決めています。学年によって若干の内容の違いがありますが、学校として共通の内容の学習をするようにしています。評価を見ると、どの学年もおおむね達成できているようです。家庭でしっかり見てもらっているという声も聞かれ、ありがたく思います。学習には地道な努力が必要です。今後も子どもへの励まし、見届けをよろしくお願いします。

読書につきましては、他の項目に比べると評価が低くなっていますが、3者とも「肯定・やや肯定」が50%をこえることが継続されています。ただ、読む子とそうでない子の差が大きいことや読む本のジャンルが偏っていることが懸念されます。毎日の読書は難しいかもしれませんが、できるだけ手元に本がある生活を意識させていきたいと思えます。

今年は、必読書を低学年は10冊、中学年は5冊、高学年は4冊、読むことを目標としています。すでに全員が読破したクラスがあります。読書については、家庭読書やNMD(ノーメディアデー)で御家庭の協力を得ることが多くありますが今後ともよろしくお願いします。